



小栗キャップの

ドクター
財産博士

発行 平成 13 年 7 月 8 日 NO. 4

㈱中央経営コンサルティング

岐阜市東金宝町 1 - 17 ムゼビル

TEL 058 - 264 - 8858

FAX 058 - 264 - 8708

■ □ ■ Q. 『元本保証』と『元本確保』はどう違うの？ ■ □ ■

日本版ビッグバンで金融商品の多様化がすすみ、それに伴ってそのリスクも複雑になっています。

「リスク」というと元本割れを想像されることでしょう。元本割れのリスクは取りたくない！と言っても、元本保証のいわゆる預貯金は金利が低い。そこで、リスクを限定したような金融商品もよく目に付くようになってきています。その1つが『元本確保型』というタイプで、外国投信や商品ファンドなどにこのようなタイプがあります。

この元本確保は、元本保証とは意味が違います。元本保証では運用期間中ずっと元本が割れないように保証されていますが、元本確保は満期時に限って最低限元本を払い戻せるように運用しているということです。つまり、元本確保型のものでは中途解約した場合には元本割れする可能性があるわけです。元本確保型の金融商品を購入する際には、この点に注意して、元本確保のしくみをしっかり理解するようにしましょう。

■ □ ■ もうちょっと詳しく教えて！！ ■ □ ■

「なんだか『元本保証』と『元本確保』って似ているなあ」と思われた方も多いでしょう。また、「中途解約さえしなければ、なんだかトクしそうだなあ」と思われた方もいるかもしれません。しかし、そこが一番注意していただきたいところなのです。

『元本保証型』と『元本確保型』は似て非なるもの

それでは、『元本確保型』の詳しい内容をご説明いたしましょう。その運用システムは、日本国内で金融機関が投資家から資金を集め、それを外資系の金融機関が運用するというものです。集めた資金を「安定運用部分」と「積極運用部分」とに分け、前者は預金や債券などで、後者は株やデリバティブといったハイリスク・ハイリターン商品で運用されます。ほぼ安定運用部分だけで元本が確保できてしまうので、残りでかなり積極的に高収益を狙っていいけるわけです。また、銀行が“信用状”を付ける事によりさらに安心して投資が出来る工夫がなされているのです。“信用状”を付すのは、外国の大手銀行が多いようです。

しかし、その外国の大手銀行も国や預金保険機構といった公的機関でないため、ひょっとしたら倒産してしまうかも知れません。また、この『元本確保型』は外国投信など外貨を取り扱うものが多く、たとえ満期償還時に元本が外貨にて確保されていても、毎日変動する為替レートのせいで円に交換することにより損が生じる恐れもあります。

これらのことをまとめると、以下ようになります。

中途解約すると元本割れを起こす可能性が高いので、長期運用のプランをしっかりと立てる。
外貨ベースで取り扱われるため、為替レートによる差損益の発生も念頭に置いておく事。
国などの公的機関の補償でないため、「万が一」もありうることを忘れないこと。

これからは自己責任により資産運用をしていく時代です。リターンだけでなくリスクにも気を配ることが大事になってきています。